

7:35左岸から新しく崩壊が生じた小沢が合流する。このあとはブッシュがかぶさるようになり、沢も小さく枝分かれてゆく。隠居倉に直接突き上げる小沢をたどり、8:00遡行終了。最後の岩場は右から捲いて、あとはヤブこぎ。隠居倉のピークはすぐ近くだと思ったのだが、ハイマツに行く手を阻まれ、大変なヤブこぎとなってしまった。8:30隠居倉のピークに立つ。

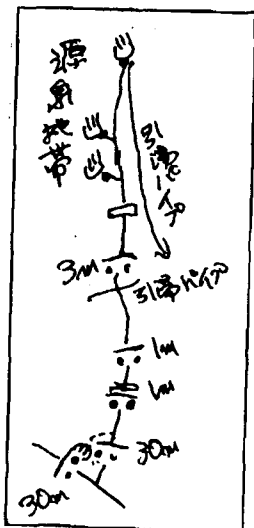
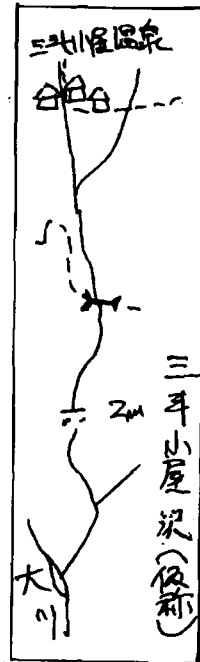
【タイム】 三斗小屋宿(5:30)→中ノ沢出合(6:10)→赤岩沢出合(6:25)→沢終了(8:00)→隠居倉(8:30)

三斗小屋沢(仮称)

1991年8月17日

三斗小屋温泉から下降開始。この沢は全くの平凡。小さなナメと2mの小滝があっただけで、湯川本流に出てしまった。三斗小屋温泉から登山道まで40分。そこから湯川本流まで50分。正味90分の短い下降であった。

【タイム】 三斗小屋温泉(9:15)→登山道(9:55)→湯川(10:50)→三斗小屋宿(11:10)



御沢右俣

1991年6月8日

5:40遡行開始。45分で、御沢出合。昨日の疲れが目立つメンバーがいて、ゆっくりペースである。7:20今日の目標の右俣出合。出合には、なんとなくなまあったかい風が吹いてきていたが、あとから考えると、温泉の影響であった。

出合の30mの落差をもつ滝は、右岸から捲く。水量が少なければ、直登できそうに思えたが、無理をしないことにした。急斜面を樹木を頼りに登って滝の上に出る。

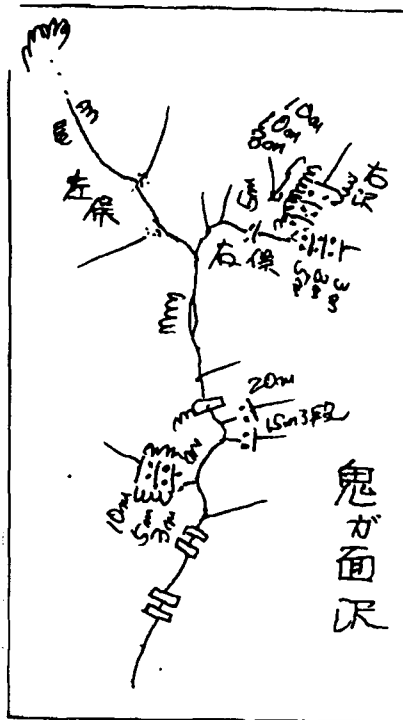
右俣は、このあとは平凡。やがて沢の水がだんだんと暖かくなってくる。なんだかおかしいぞと話合っていたら、頭上を引湯パイプが横切る。これは温泉が入っているぞといいながら、先に進む。沢床は、鉄分が沈着して、鐘乳洞を思わせるような地形が続く。そしてすぐに開けた地点に出る。そこは、温泉が何力所からも湧き出している地点で、流入する水は全て暖かい。水源までが温泉であった。9:00遡行終了。 (記)

[タイム] 苦土川出合(5:40)→御沢出合(6:25)→右俣出合(7:20)→遡行終了(9:00)→沼原(10:20)→苦土川出合(11:20)

鬼ガ面沢 1991年9月21~22日

昨夜寝る時まで雨が降り続き、今日も晴れっこないと思い込んでいたため、寝過ごししてしまった。8:30出発。鬼ガ面沢左岸の林道を少し進んでから沢に下る。下りついたとたん砂防ダムが2個続く。右岸、左岸と捲いて越える。その上流にも再び砂防ダムが2個続き、ここも右岸、左岸と捲いて越える。沢幅いっぱい石が堆積し、荒沢を思わせる出だしである。

やがて沢が右にカーブし、ここに最後の砂防ダム。左岸に踏跡があったのに気が



がつかず、右岸にとりつき、岩場をつけた小尾根を越えて捲く。このあとも荒れた沢筋が続いた。

9:45二俣。まずは左俣にルートをとる。荒れた沢筋が続く。合流する支沢からも土砂が押し出している。二俣から15分程遡ると沢は急に傾斜を増し、両岸が切り立つ岩場となってきた。しかし沢筋には石がゴロゴロしているだけで、滝はかからない。そのうち水も濁ってしまった。やがて草付が始まる。見上げる上部には大きなガレ場が見えている。登りきるのもなかなか大変のようなので、ここで遡行終了とする。

二俣まで戻り、10:20右俣の遡行開始。左俣と異なり、右俣は樹林帯の中を流れ、荒沢でも